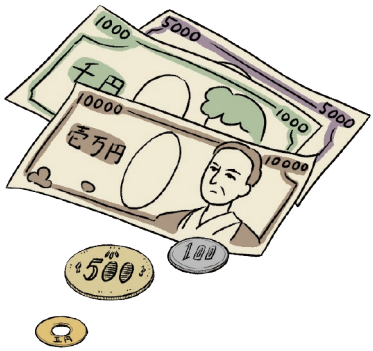
Stock Investment for Doctors

1 なぜ株式投資をすすめるのか

お金って何ですか？



「あなたにとって、お金って何ですか？」

即答できた方は、それでよいと思います。即答できなかった方は、少しお金について考えてみるよい機会になるかもしれません。

私にとって、お金とは**「道具」**です。ただそれだけです。人によっては、道具以上の存在だと思っている方もいるでしょうし、私も時折お金に翻弄されて道具以上の存在に感じることもあります。しかし、どれだけ考えてもお金はやはり道具だと思うのです。ドラえもんのひみつ道具ほど夢とロマンにあふれた使い道があるわけではありませんが、お金には道具としての使い道があります。

まず、お金はいろいろなものと**交換**ができます。形のある食べ物や服飾から形のないエンターテイメントや情報まで、ありとあらゆるものと交換ができます。この交換という使い道がお金の最も重要な機能といえます。使う人によっては、世の中にお金で交換できないものなど存在しないという人もいます。それがゆえ

JCOPY 498-04850

に、お金は争いの種にもなります。その途方もない交換機能に、魅入られてしまうためです。

その他の機能として、お金は**経済的指標**になります。そのため、他者と比較するために用いられることがあります。お金があることがその人の名声につながることもあり、やはり貧富の差のために幾度となく戦争が勃発した歴史があります。個人の比較だけでなく、集団、ひいては国の間での比較にも用いられます。貿易統計などの経済指標を比較する際、やはりその根本にはお金が存在します。

お金を使う際、私たちはその価値に見合ったものを買っているかどうか吟味します。キャベツ 1 個 1,000 円、うーん、高すぎる。ニンジン 1 本 5 円、安い！といった風に。交換するものが想定価値よりも低い（価値がない）場合、それを**浪費**と呼びます。将来価値が減っていくあるいはなくなるものと交換する場合、**消費**と呼びます。そして、想定価値よりも高いもの（将来高くなるもの）の場合、おそらくそれが**投資**と呼ばれるものなのでしょう。ものを交換するたびに、わらしべ長者式にその価値が増えていくと、その人は経済的にどんどん豊かになっていきます。浪費と消費を減らし投資に重きをおくこと。豊かな人は**お金という道具をうまく使った人間**の結果そのものともいえます。

お金は汚いもの、お金儲けは悪いこと？

医師は世間一般からは「高給取り」というイメージを持たれています。大学病院に勤務している医師は特に大学院に入っていると例外的に安いですが、全国平均から見れば実際に高給取りなのは間違いありません。厚生労働省の平成 28 年賃金構造基本統計調査（http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/chinginkouzou_a.html）によれば、**医師の平均年収は 1,156 万円**とされています。この数字は中央値ではなく平均値なので、勤務医の方々が抱いている印象とは少し差異があるかもしれませんが、非常に高い金額ですよね。

今の団塊世代の医師が研修医の頃、小説『白い巨塔』の時代の研修医は無給に近い状態でした。しかし臨床研修制度の変更に伴って、現在では研修期間中も額面年収 400 万～600 万円ほどが確保されています。研修医でさえも、通常のサラリーマンと比べて優遇された給与体系なのです。

医師の中でもとりわけ勤務医にはお金を使う時間がほとんどありません。昼夜を問わず年中病棟から呼び出され、土日祝日・年末年始も出勤。労働基準法なんてあってなきようなもの。全国の勤務医の多くは、実際の残業時間に見合った給与を支払われていないのではないかという意見もチラホラ。勤務医の心の支えに

なっているのは、医師としての使命感であったり、患者さんからの感謝の言葉であったり、わずかな時間いっしょに過ごせる自分の家族だったりします。

私にとっての生きがいは、家族とともに過ごす時間です。「家族と過ごす時間にお金が必要かどうか」という問いに、私は「間違いなく必要だ」と断言します。子どもにある程度の教育を提供するためにも、おいしい食事をみんなで食べるためにも、休日に少し贅沢なレジャーを楽しむためにも、お金という道具が必要です。「最低限のお金さえあればよい」、「つつましく生活する清貧こそが日本人としてのあるべき姿だ」と思っている人は、この本を読む必要はありません。この本は、資産を効率的に運用したい、資産を守るあるいは増やすという目的で、**株式投資に一歩踏み出したい医師**に向けて書いたものだからです。

お金には欲望がつきまといます。そのため、雄弁よりも沈黙の方に価値があるという風土が根付いている日本文化にお金など相容れる存在ではなく、「日本人がお金の話をすることは低俗なことだ」と考えられています。残念ながら、日本において金儲けは絶対悪です。株式投資イコールお金持ちの道楽というイメージが強く、「株で儲けた」などと口にしようものなら「医師としての仕事に集中していない」などと非難されるでしょう。私が匿名でこの本を書いたのもそういう理由からです。お金に対してもっと寛容な文化であれば、実名で書いたかもしれません。

さて、医師は高給取りですが、納税額も高いのが現状です。たとえば年収が1,500万円の独身の医師なら、所得税と住民税は合わせて300万円程度です。結婚していたり子どもがいたりすれば、もう少し減るかもしれませんが、それでも多額の納税をしているのは間違いありません。

実は節税という観点からは、不動産投資の方がベターです。マンションを経営

JCOPY 498-04850

する場合、サラリーマン（勤務医）でありながら貸家業も兼業している状態なので、合法的に経費を申告することができます。そして、現行の相続税制のもとでは、現金よりも不動産の方が評価額が低くなります（資産を割り引いて評価してくれる）。

しかし特に勤務医の場合、不動産投資を始めるのが少々煩雑であることも事実です（43 ページ）。株式投資のように手っ取り早く始められる類の資産運用ではありません。そのため、私は主に株式の中長期投資で資産を運用しています。この本では、主に**中長期目線での株式投資**について記載したいと思います。また、何度も書くことになると思いますが、私は基本的に**バリュー株を逆張りで投資するスタイル**なので、そちらに偏った記載になっていることをご了承ください。

本来、資産運用とはお金を儲けることを目的とした用語ではありません。リスクを分散させて資産が減らないようにするための言葉です。運用の結果、効率的に資産が増えることが最良のアウトカムです。お金をまったく増やさなくてもよいという人は銀行預金やタンス預金でよいと思いますので、やはりこの本を読む必要はないでしょう。

投資はリスクの高いギャンブル？

「投資はギャンブルと同じで危ない」という意見をよく耳にしますが、これは間違いです。投資の対極にある言葉として、ギャンブルのことを**投機**といいます。私の妻も「投資は危ない」とよく言っています。危ない理由を聞いてみると、「株はコワイ、絶対に損をするのでやめた方がいい」というだけで、まともな返事が返ってきません。うーむ、どうやら悪いイメージが先行しているようだ…。

結論からいえば、**投資はリスクが高いですがギャンブルではありません**。「ほらみろ、リスクが高いんじゃないか」と非難されるかもしれません。さて皆さん、リスクを取らずして資産が増えるなどというウマい話が一体どこにあるでしょう。大事なのは、そのリスクがどのくらい高いかをしっかり理解することです。

パチンコで 1 万円を 10 回つぎこむリスクと、1 万円ずつ業績が良好な株 10 銘柄に投資するリスクとでは、雲泥の差でパチンコの方がリスキーです。ただ、株式投資のリスクというのは銀行預金やタンス預金のそれよりも高いのはいうまでもありません。私がいいたいのは、**「リスクを理解して投資しておれば、もはやリスクが高い状態とはいえない」**ということです。目の前にあるリスクを容認しているのなら、それはもうその人にとって織り込み済みのリスクです。リスクであってリスクでない。

JCOPY 498-04850